

【複式指導実践講座 NO.4 ～学習リーダーについて～】

複式指導の重要性については、昨年度の学校教育課だよりを通し、「複式指導実践講座」として計3回、以下の内容で紹介しました。

- NO,1 個別最適な学びに通じる複式指導のメリット
- NO,2 主体的な学びを進める「直接指導」と「間接指導」
- NO,3 実際の複式指導について～「ずらし」と「わたり」～



今回の内容は「**学習リーダー**」についてです。

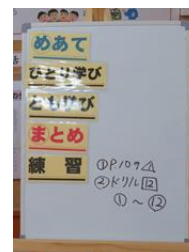
「北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター『へき地・複式学級における学習指導の手引き』（平成31年3月）」によると、主体的な学びのためには、児童生徒が「自分たちで課題を解決するという意欲を高めることが重要」とされています。そこで、教師が直接指導できない場面で、主体的な学びを進めていく一つの方法が「学習リーダー」の活用です。



- ア 学習の流れに従って、進行する。
- イ 簡単な事項について、指名したり、指示したりする。
- ウ 一人学習やグループ学習などの時間設定をする。
- エ グループ学習などで、意見や考えを整理する。

館岩小学校では、次年度、完全複式編制になることも視野に入れ、複式指導の充実に取り組んでいます。

- ① 研修主任より全校児童へ授業の進め方を指導し、全校で共通理解を図る。
- ② 授業の流れを可視化できるよう、各教室に本時の進め方を記入できるホワイトボードを設置する。
- ③ とも学び「ガイド学習」を取り入れ、児童自ら学び、課題解決を図る能力と習慣の育成を図る。
- ④ 学力の差に関係なく、すべての児童が「ガイド学習」の学習リーダーとなれるよう、とも学びの仕方を意図的に指導する。



（成果）

- すべての児童がガイド学習のリーダーを経験することで、発表に対する苦手意識が低くなり、表現力の向上につながっている。
- とも学びの時間に自分の考えと他の児童の考えを比較することで、課題を多面的・多角的に捉え思考力の向上がみられる。

学習リーダーは、通常学級でも個別最適な学びの充実に向けて、有効な手段だと考えます。適時とり入れてみるのはいかがでしょうか。

